松本基志 県政報告

群馬県議会議員

令和5年 冬号

松本基志事務所
〒370-0861 高崎市八千代町1-17-8
TEL 027(325)1727
FAX 027(321)7523

県議会一般質問 「大切なこと」浮き彫りに！

子どもはふるさとの宝

群馬県議会議員 **松本 基志**

今回の一般質問では手話通訳をお願いし、耳の不自由なみなさんにも松本県議の思いが伝わるよう努めました

群馬県議会が開かれた11月29日、松本基志県議は初当選から5回目の一般質問に臨みました。直下型地震などで東京の首都機能が喪失した際の本県の役割をただすなど、ライフワークとしてきた防災対策をまず盛り込みました。続いて「医療的ケア児の支援」「保育人材の確保」「今後の小児医療センターについて」など、質問内容からは群馬の未来を支える子どもへの温かい視線が際立ちます。

政治家として何を大切にしてきたか？ その答えが浮き彫りとなった松本県議と執行部とのやりとりの概要を報告します。

医療的ケア児の支援求める！

「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」は令和3年に公布され、「医療的ケア児支援センター」の設置を促しています。松本県議は県の支援状況とセンター設置への取り組みを聞きました。

健康福祉部長は、児童発達支援事業や放課後デイサービスなどの通所支援事業所の整備を進め、喀痰吸引や経管栄養を行える介護職員らも養成していることを示しました。その上で「センターの設置に向け、専門の協議会を設け、支援の在り方などを検討。今後も設置にむけ関係機関と調整を進めたい」と答弁しました。

松本県議は山本一太知事に「知事の思いはどうか」と再度質問。知事は「医療的ケア児と家族の方が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、医療、福祉、教育など幅広い分野が密接に連携する必要がある。支援センターはその役割を担う機関であり、ぜひ設置したい」と応えました。

保育士不足対策は？

松本県議は、群馬県内でも目立つ保育士不足を懸念しています。県が保育人材の確保にどう取り組んでいるかを聞きました。

保育士の採用局面はハローワークを利用しない傾向があり、生活こども部長は「有効求人倍率で保育士不足の現状は把握しづらい。県は県内600施設を対象に独自の調査を進め、例年300人程度の不足が生じている」と現状を。「保育団体との合同就職説明会や体験型事業を開催し、潜在保育士の再就職も支援している」と説明しました。

国が進める「保育士・保育所支援センター」の設置についても質問。部長は、県福祉人材センターが「保育士・保育園支援プロジェクト」を立ち上げ、求職者の適性や希望にあった施設との効果的なマッチングを模索しているとし、「保育体制の整備に向けて『保育士・保育所支援センター』の設置をしっかりと検討していきたい」と方針を示しました。

小児医療の今後問う

県立病院の在り方について、二十年後を見据えた「県立病院の未来を考える有識者会議」の議論内容を問いました。病院局長は「論点は大きく『診療機能のさらなる強化』『災害対応機能や振興感染症に備えた体制整備』『持続可能性の強化』の3点で、持続可能性の強化で老朽化した施設の再整備などが議論されました」と、これまで6回開かれた会議を要約しました。

松本県議は「小児医療センターの今後を」再質問。病院局長は「小児医療の最後の砦として重症心疾患、神経難病などに対応し、周産期母子医療センターの機能も担っている。施設の再整備と幅広い疾患に対応できる総合病院との連携強化が必要」と、子どもが充実した医療を受けられる方向性を示しました。

知事に首都直下型地震問う
「日本支える」覚悟で備えを!!

全国各地で豪雨による水害や大地震が起こり、多くの人達が悲しみを味わってきた。松本県議は自ら防災士となるほど、防災対策をライフワークとしている。今回の一般質問では冒頭、県が近未来構想の一つとして掲げる「レジリエンスの拠点」について、山本一太知事の考えを求めました。

群馬の潜在力で大地震に対応を

知事は「レジリエンスとは大規模な災害などの危機や困難にしなやかに対応し、乗り越えるという意味であり、特に首都直下型地震が発生した場合、人的、物的被害のみならず、我が国の社会経済活動への深刻な影響が危惧される。群馬には日本の危機を支えるポテンシャルがあると感じており、新たな取り組みにチャレンジしたい」と、基本的な考えを明らかにしました。

本県のポテンシャルについては、過去10年の地震の発生回数や自然災害による被害世帯数などから、群馬の安全性に言及。東京からのアクセスの良さ、充実した交通網などもピックアップした上で、前橋赤十字病院を中核とした医療提供体制なども〝強み〟として取り上げました。

県民の安全確保に力を入れてきた松本県議は、さらに地域防災アドバイザー制度を生かした「地域防災力の向上」について質問。

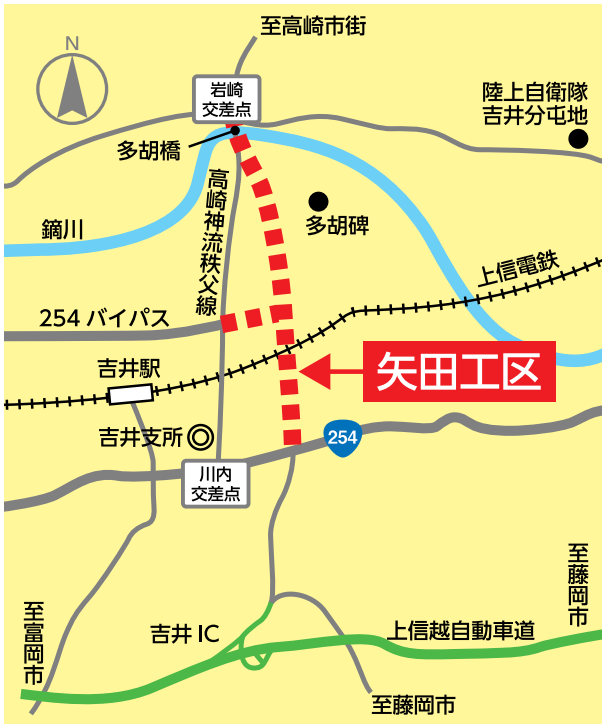
県民意識高め市町村と連携

危機管理監は、県がすでに地域防災アドバイザーを759人養成し、スキルアップにも力を入れていることを紹介。本県の防災力を高めるためには「県民の自助、共助への意識を高め、自主防災組織の活性化は不可欠。市町村とも連携しながら、地域防災力の向上を図っていきたい」と、万一に備える姿勢を示しました。

群馬県議会議員

松本 基志

吉井の県道「矢田工区」も質問



慢性的な渋滞をなくす県道高崎神流秩父線「矢田工区」の整備は、住民の快適な生活を確保するためにもポイントとなる事業。5回目の一般質問で、現状と今後の予定を聞きました。

矢田工区は吉井町岩崎の「多胡橋北詰」から同町矢田の国道254号までの延長1・9キロ。上信越自動車道・吉井インターチェンジへのアクセス向上と渋滞緩和を目指して、4車線のバイパスを整備します。

計画区間の最北端、鏑川に架かる多胡橋の追加2車線分の工事が本年度始まり、工区初の着手です。

県土整備部長は「県土整備プランに基づき、計画的に事業を推進していく」と、令和11年度の開通を目指しています。

鏑川の堤防整備求める

令和元年の台風19号の被害を受けた吉井町中島地区の鏑側右岸の堤防嵩上げについても質問しました。

県土整備部長は「詳細設計や整備に必要な用地の買収を終え、嵩上げが必要な約250メートルの区間で工事が始まりました」と現況を説明しました。来年3月末までの完成を目指して、事業を推進しています。

◇　◇　◇

松本県議はほかに、以下のタイトルで質問をしました。

■障害者福祉について
■休日の部活動の段階的な地域移行について
■群馬交響楽団について

写真でつづる　もとしの活動

新型コロナ感染症対策の拠点となったGメッセ群馬。2023年4月には、「G7デジタル・技術大臣会合」が開催されます。JR高崎駅から近く、利便性の高い施設はコロナ後も群馬発展の核と期待されます。松本県議はその可能性に早くから注目しています。

12月11日、有志で、「片岡の歴史碑」の清掃活動を行いました。この碑は、千二百年以上の歴史をもつ「片岡」の地名を永遠に存続させようと、片岡中学校同窓が平成元年5月に建立。しっかりと後世に繋いでいきたいと思います。

12月19日、大泉町にあるPHC株式会社を視察しました。この工場では、新型コロナワクチンをマイナス80度で保管できる超低温冷凍庫を製造するなど、コロナ対策の最前線で大きな貢献をしています。

「インクルーシブぐんま準備会」の意見交換会に12月11日、参加しました。色々な立場の皆さんの活動を通しての課題や今後の取組などについて意見交換することができ、有意義な会になりました。